

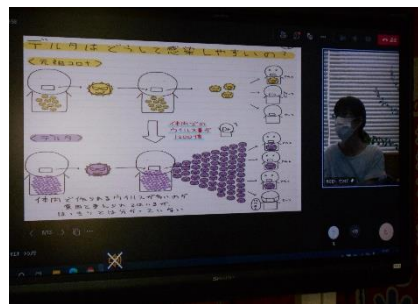


実り多い 2 学期に！

校長 平田 和利

2 学期は、新型コロナウイルス感染症の影響で、時差登校となり、全校生徒が揃うことができず、例年のない形での始業式となりました。

新型コロナウイルス感染症は、全国的に新規感染者が急速に増加していたことや、本県でも「まん延防止等重点措置」が適用されていたことなどから、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り、低減



させるため、時差登校や正門での体温チェック、休み時間の手洗いの徹底、マスクの確実な着用など、学校生活で自分自身の身を守ること、相手の身を守ることなど指導を徹底しました。

今回の変異株（デルタ株）の特徴については、感染力は従来株の 1.87 倍とはじき出されています。

また、米疾病対策センター(CDC)が、1 人のデルタ株感染者が免疫のない何人に感染させる力があるかを示す「基本再生産数」を試算した結果によると従来株の基本再生産数が 1.5~3.5 人に対し、デルタ株では 5~9.5 人と約 3 倍になり、空気感染する水ぼうそうの 8.5 人と同等と指摘しています。

保護者の皆様には、感染症対策等にご理解とご協力をいただき有難うございました。

ところで、2 学期は 1 年のうちで最も行事が多く、学校に出てくる日数も多く「実りの多い 2 学期」とよく言われます。

そのためには、それぞれの行事の目的をしっか

りと理解して、学級の中での自分の役割や友達と協力することの大切さなどを学ぶチャンスでもあります。楽しく安全な学校生活をおくるためにも協力しあうことはとても大切です。

この 2 学期、互いに相手を認め合い、語り合い、協力しあって、支える伊敷台中にしましょう。

また、この 2 学期は、一生懸命やればやるほど、得るもの、学ぶものが大きく、体の面、心の面で最も大きく成長できる学期だと思います。

最後に、この 2 学期は、「今どうすべきか?」、「何をしなければならないのか?」一生懸命に努力すれば、進むべき方向がきっとわかります。「こういう人になりたい。ではなく⇒なる」、「こんな職業につきたい。ではなく⇒つく」「この高校でこんな勉強をしたい。ではなく。⇒する」という強い思いをもって、「今、目の前にある事を一生懸命やること」、「こつこつと実践する」ということです。

それは決して、いつもどんな時も緊張して生活を続けるということではなくて、心のスイッチをオンにしたり、オフにしたりして過ごす心の持ち方が大事だということです。要するに、「けじめ」をつけて生活をすることです。

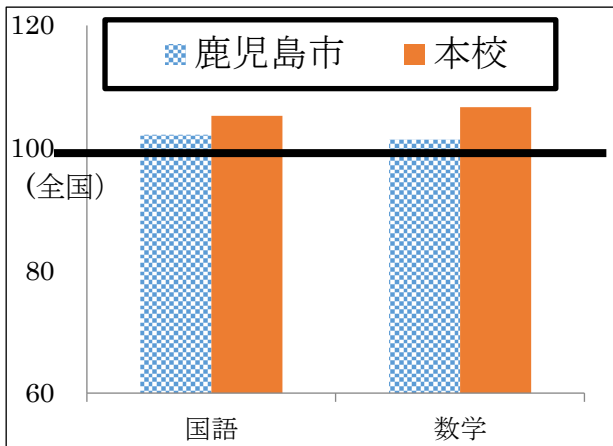


この 2 学期、学校行事などで忙しいとは思いますが、頭も鍛え、心も鍛え、体も鍛え、健康に気をつけて、強い気持ちで一つ一つのことに一生懸命努力することで道は必ず開けてきます。なんどきでも自分の意思で新たな 1 ページを開くことができるのです。分かりやすく言うと、自分の力で変わる、変えられるということです。

コロナ禍の中で、学期始めから不自由な学校生活を送ることになりましたが、ピンチをチャンスに変えるという前向きな気持ちで、全力で何ごとにもチャレンジして、自分をチェンジしてはどうですか。

全国学力・学習状況調査から

1 自校・市・全国の平均正答率の比較 〈 全国平均正答率を100とする 〉



2 課題に対する改善策

〈国語〉

平均正答率は市・全国を上回る結果が得られた。また、「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」のいずれの領域でも全国・県平均を上回る結果となった。問題別では、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことや相手や場に応じて敬語を適切に使うことなど、指導の工夫・改善を図っていく。

〈数学〉

平均正答率は市・全国を上回る結果が得られた。また、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」すべてにおいて全国・県平均を上回ることができた。問題別では、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するなど、指導の工夫・改善を図っていく。

生徒質問調査では、「将来の夢や目標を持っている」「人が困っているとき進んで助けてあげる」などの割合が高く、「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」などの割合が低くなっています。

読書のすすめ

現代は、子供むけの図書も多いけれども、映像が世の中にあふれ、子供も大人も活字離れをしている時代的背景があります。

しかし子供たちに読書の興味がないわけではないと思うのです。私たちはこのような子供たち

に、「1冊の本との出会いは、大きな可能性を秘めている。」「こんな生き方もあるという新鮮な感動。こんな世界もあるんだというワクワクする喜び。この先はどうなるんだろうというドキドキする好奇心。」そして、中学生にとって、「本」は想像力(⇒創造力)を育てる未知の世界への扉であることなどを伝える必要があるのです。

ご家庭でも保護者の方々からこれまでの読書の体験を基に読書の楽しさを語ってもらうことが、読書好きの子供を育てる第一歩ではないかと思えます。読書好きの家庭は、子供もよく本を読むそうです。そして読書の内容が共通の話題として食卓にのぼるようになれば大したものだと思います。私はこの本を読みました、と子供が話しかけた時、外面的に賞賛するだけでなく、内容にふれて賞賛するとしたら、子供は一段と読書の意欲が高まるのではないのでしょうか。

読書活動と学力・学習状況調査の関係に関する調査研究の中でも読書活動は学習活動に大きく影響しており、それが間接的に教科の学力にも影響していると、言われています。

体育競技大会～学年別～

まん延防止等措置の適用等により、9月に実施できなかった体育大会を学年別による体育競技大会として、10月1日に実施しました。

当日は、素晴らしい秋空の下、子供たちの安全面に配慮しながら、各学年工夫を凝らし、学級全員リレーや1000m走、3年フォークダンスなど、子供と先生方が一緒になって取り組み、きっと子供たちにとって大きな思い出になったと思います。特に学級全員リレーはクラスが一つになって、まさに全員力でバトンをつないで走り、なかなかの盛り上がりでした。各学年の総合優勝は、1年生2組、2年生4組、3年生3組でした。おめでとうございます。

